

第2節 資料館における社会貢献活動

第13回公開授業『古代人の知恵に挑戦！－古代のお米をつくってみよう－8』を開催

はじめに

当館では、平成13年度より、考古学や埋蔵文化財、山口大学構内遺跡の調査研究成果を地域の皆様に身近に感じていただくことを目的として、公開授業を開催している。

第13回となる平成25年度の公開授業は、昨年度に引き続き、日本のお米のルーツとされる赤米をつくり、土器で炊いて食べてみるという内容である。今回も埋蔵文化財資料館と山口大学農学部との共催で、吉田構内の山口大学農学部附属農場で延べ4回行い、小学生以下1名、小学生7名、教育学部学生5名、一般18名、合計31名(付き添いの方含む)の皆様に参加していただいた。今回栽培したのは昨年と同じ「紅吉兆」(糯米)である。

6月15日(土)－田植え－

当日は朝まで雨が降っていたが、幸い開始時間には雨が上がり、参加者は農学部附属農場・技術専門職員の長砂さんに代かきをしていただいた水田に田植えを行った。田植えがはじめての方も多く、水田がぬかるむため足をとられて大変だったが、協力して無事に終了することができた。

7月20日(土)－稲の観察と除草・土器づくり－

当日は朝から快晴に恵まれた。参加者は技術専門職員の長砂さんから水田に生える雑草(コナギ)についての説明を受け、稲とヒエの違いなどを学習し、除草を行った。その後、実習室に戻って土器づくりに挑戦した。短時間だったが、参加者それぞれが古代に思いを馳せた個性的な土器ができた。

10月20日(日)－土器焼成・収穫－

参加者はまず、前回つくった土器を「覆い焼き」で焼成するため、泥窯づくりに挑戦した。この後は収穫であるが、7月28日の大雨で南隣の水田西側の斜面が崩壊したため、水田に大量の水が流れ込んだ。また、その後、猪が水田にたびたび侵入し、稲が倒れる被害があった。それでも残った稲は最終的に長さ約100cmにまで成長した。収穫は模造した石庖丁などを使い、穂摘みで行った。しかし、水田がぬかるんでいたため、収穫は一部にとどめ、残りの収穫は農学部附属農場にお願いした。翌日の午後、土器の大半は割れることなく焼成することができた。

11月16日(土)－脱穀・粳すり、赤米を食べる－

参加者は午前中に箸こぎ、臼と杵による粳すり、てみとザルによる選別と千歯こき、精米機による作業を体験した。午後からは赤米の試食を行った。今回も土器による炊飯と蒸米を行い、炊飯は成功したが、昨年同様、火力不足のためか時間内にお米を蒸すことはできなかった。炊飯した赤米は歯ごたえがあるものの美味しく甘みがあった。おかずには朴葉焼き、豚汁、あさりのすまし汁をつくったが、これらも美味しく好評であった。このほか、参加者は火おこしにも挑戦し、多くの方が点火に成功した。

公開授業を終えて

今回の公開授業は農学部附属農場で6回目の開催となった。水田が大雨の被害を受けたほか、猪が水田に進入するなど、思いがけない出来事があったが、無事に終了することができた。

参加者からは「赤米はとても美味しかったです。(小学生)」、「火おこしができてうれしかった(小学生)」、「とても面白く貴重な体験ができました(一般)」などの声が寄せられ、好評であった。平成25年度も、参加者には米作りの歴史や大変さを実際の体験を通して学んでいただくことができ、公開授業の目的を達成することができたと感じている。館員一同心より御礼申し上げたい。



写真8 苗の説明(6月15日)



写真9 田植え(6月15日)



写真10 稲と雑草の状況(7月20日)



写真11 除草(7月20日)



写真12 土器づくり(7月20日)



写真13 泥窯づくり1(10月20日)



写真14 泥窯づくり2(10月20日)



写真15 焼成した土器(10月21日)



写真16 水田の様子(10月5日)



写真17 収穫(10月20日)



写真18 参加者の皆さん(10月20日)



写真19 館長挨拶(11月16日)



写真20 火起こし(11月16日)



写真21 脱穀・粃すり(11月16日)



写真22 籾こぎ(11月16日)



写真23 食事風景(11月16日)